

山岳トイレ技術分野の今後の展望（案）

1. 事業が目指すべき方向

（1）これまでに実施してきたこと

- ① 技術の特徴整理
- ② 技術の課題整理
- ③ 実証試験方法の構築
- ④ 性能把握のための項目整理
- ⑤ 手数料体制における試験の効率化

（2）今後の課題

- ① 実証試験手続きの効率化
- ② 実証試験の簡素化と自主化
- ③ 実証試験の継続性
- ④ 実証試験のコストダウン
- ⑤ 参画者の拡充

（3）今後の展開として検討すべき事項

- ① 本技術の法的位置付けと法的課題の整理
- ② 技術評価など、試験結果の有効活用方法の検討
- ③ 補助制度や自然環境政策等との連携方法の検討
- ④ 自然エリアにおけるトイレ整備方針の検討
- ⑤ トイレ整備後のフォローアップ手法の検討

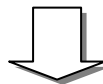
2. 今後の事業展開

平成 18 年度

	検討項目	内容
1	試験結果の周知	試験結果の効果的活用を目的に、地方自治体の自然保護担当者等に試験結果や技術情報を随時連絡できる体制を構築する。
2	実証試験項目の検討	維持管理の適正化や環境保全効果等を目的として、ランニングコスト、節水効果、CO2 削減効果などが把握できるよう試験項目を見直す。
2	実証体制の改善	運営体制の効率化を目的に実証運営機関が実証申請を受け付け、審査を実施する。申請技術に適した実証機関を選定する。
3	実証機関の拡充	試験コストの削減や実証試験を柔軟に実施することをめざし、実証機関は、民間も含め適正計量管理事業所等を対象にする。対応可能な機関は、事前登録する。

平成 19 年度

	検討項目	内容
1	技術分野名称の改定	自然エリア全域のトイレ改善、技術普及を目的として、名称変更を検討する。 (現) 山岳トイレ技術 → (案) 非放流式トイレ技術
2	実証機関の強化	実証機関の実証精度の向上、実証試験に関する知見の共有を目的として、実証機関を希望する機関を対象に技術実証に係る講習会を実施する。
3	定期試験の実施	実証性能の保持、維持管理の適正化を目的として、実証済み技術を対象に、定期試験を実施する。
4	試験結果の有効活用	本技術の現場導入や試験結果の実践的活用に関するアドバイスを実施する。
5	設置者アンケートの実施	自然エリアにおけるトイレ整備の実態、今後の技術ニーズを把握することを目的に、地方自治体や山小屋等を対象にアンケート調査を実施する。



- | |
|--|
| <p style="text-align: center;">① 実証試験の事業化</p> <p>② 自然エリアの利用促進、環境保全のための適切なトイレ整備・維持管理手法の確立</p> |
|--|